

令和2年度第3回鹿児島市子ども・子育て会議 会議概要

【開催日時】

令和3年2月22日（月） 14:00～15:15

【開催場所】

鹿児島市教育総合センター3階 青年会館研修室

【出席者】

○委員 21名

前原会長、有馬副会長、平嶋委員、中原委員、益山委員、小出委員、上原委員
小森委員、根路銘委員、青木委員、富永委員、田畑委員、楢松委員、西蔭委員
竹井委員、森田委員、米山委員、内村委員、原田委員、鉾之原委員、興委員

○鹿児島市

こども未来局次長、こども政策課長、保育幼稚園課長、母子保健課長、こども福祉課長、
こども支援室長、政策推進課長、地域福祉課長、谷山福祉部福祉課長、保健予防課長、
雇用推進課長、学校教育課長、保護第二課長、青少年課長 ほか事務局職員

【会次第】

1 開 会

2 議 事

(1) 鹿児島市子どもの未来応援プラン（子どもの貧困対策推進計画）（素案）に関する市民意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

3 その他

4 閉 会

【質疑内容】

2. 議事

(1) 鹿児島市子どもの未来応援プラン（子どもの貧困対策推進計画）（素案）に関する市民意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

（会 長）

議事（1）について、事務局から説明をお願いする。

（事務局・こども福祉係長）

資料1をもとに説明

（委 員）

学習支援の現状について教えて欲しい。

（事務局）

毎週土曜日、生活困窮世帯等の子どもたちを対象に、中央・谷山・吉野地区で実施している。学校で分からないことを大学生や教員OBに聞くほか、コミュニティを作ることも目的に実施している。

（委 員）

我々ほどの様な家庭が貧困なのかが分かりにくいので、データで分かりやすく掲載してあるのはありがたい。自分が子どもの頃は今よりも貧困家庭が分かりやすかった。

No75の冒険遊び場に対する意見の対応状況に興味を持った。吹上浜海浜公園などのように、子どもが遊べる公園ができると良い。自転車に乗れたり、色んな遊びができる場があれば良い。多様な体験活動の場の提供にも努めてほしい。

（事務局）

市も子ども食堂など子どもの居場所づくりに努めている。東京都などでプレイパークをしている所もあるので、他都市の状況なども含めて、今後研究してみたい。

（委 員）

学習支援の取組を、子ども食堂や地域食堂に増やしていけたら良い。

（事務局）

子ども食堂は地域で自主的に活動されている。食の提供だけでなく学習支援に取り組んでいる所もあるので、まずは情報収集に努めていく。

（委 員）

No59の対応状況に下段について、「何らかの指標を検討する」とあるが、子どもの貧困を定義付けするという事か。

また、No196にあるようにIターンやUターンした人が町内会ではじかれて、また戻ってしまうという話を聞いたことがある。町内会との連携とあるが、何か具体的なアイデアなどがあれば教えてほしい。

No164の携帯電話やゲーム機の所持率が貧困世帯で高いことについては、習い事や塾に行っていない割合が高く、家で過ごす時間が長くなることから要因にあると思う。

No210に貸与ではなく給付をとあるが、必要に応じて支援を組み合わせれば良いと思うが、市として独自の考えがあれば教えてほしい。

（事務局）

目標値は現時点では設定する予定は無い。29年度に実施したアンケート調査と比較できるように再調査の必要性を検討し、今後、国が何らかの目標値を示すなどした場合は、貧困率だけでなくミクロ的な視点も含めて、何かしらの指標の検討を行いたい。

町内会との連携は、庁内の担当部署とも今後協議していきたい。

ゲーム機などの所持率について、詳細な分析はできていないが、委員ご指摘の側面もあると考える。

(委員)

町内会に関して、パブコメの意見のような状況があるのであれば、町内会も機能不全なのかなと思う。

(委員)

No203にあるように会議に参加したことで、自分も知った施策がある。親になる前の方にも情報が目に付くよう、デジタル化を推進してほしい。

(事務局)

SNS、ラインも含め、今後幅広く情報が届くように工夫していきたい。

(委員)

No7に、この計画について「行動にうつせる」とあるが、これは「実効性の高い」という意味だと思う。社会的・経済的に弱い立場に置かれているは虐待等の要保護家庭などへの支援は、申請主義をベースにしていると思う。申請しない家庭への介入の難しさもあると思うが、これまでの取組を含めて行政の対応実例があれば教えて欲しい。

(事務局)

委員のご指摘はそのとおりだと思う。児童虐待に関しては要保護児童対策地域協議会を多様な機関で構成している。その中で、例えば保育園等では子どもの着替えなど、子どもと接する中で家庭の変化に気付いてもらえるよう、こども支援室の職員が年間40回ほど保育園や児童クラブ関係者に研修を行っている。なるべく早い段階で気づき、こちらから出向いて支援のニーズをくみ取り、実際の支援につなげていくことに努めている。来年度は子ども食堂など、地域の方々も一緒に見守りを強化するような取り組みを進めていく。

(委員)

授業料や学用品は無料だが、それ以外にもお金はかかる。母子寡婦福祉会でも市の取組として金銭管理に関する講習会などを実施しているが、なかなか参加者がいない。中学校に入学するときは少なくとも10万円は準備しておく必要があるよ、ということもPTA単位で、親への金銭教育として実施できないか。例えば、公立高校に行くのに月1万円かかる場合、私立だとその3倍はかかる。なりたい目標がある人はそれでも良いが、よく考えもせずにここでいいやと思って行ったら、親も苦勞する。教育というか、大人としての意識を持つためにも、金銭教育が必要ではないか。昔はお金の話をするのは汚いと言われたが、お金あつての生活である。

(事務局)

就学援助については教育委員会総務課で対応している。教材費については、校長会などを通じて、学校ごとにバラツキが無いよう、また過度な負担が保護者にかからないよう指導している。

(委員)

学校では入学説明会で1年間に必要な経費について保護者に説明している。また就学援助の案内も行っている。

(委員)

資料2のP7にあるように、地域の方々の力も必要で情報共有が大事だと思う。学校としても各地域の団体や民生委員などと連携しており、子どもたちのより良い生活のために、様々な関係機関との連携は大切だと考える。

(事務局)

計画策定にあたり、庁内・庁外で協議をしてきた。今後は関係機関で連携する場を作っていくことなども検討していきたい。

(委員)

妊娠・出産期からの切れ目ない支援とあるが、将来的に子育てをしたいという希望が持てないところまでにつながらない。このプランの中で、将来的に子育てを考える人たちが希望を持てるような明るい形でプラン推進に取り組んでもらいたい。

(事務局)

経済的な不安や社会的孤立から不安になると思うので、生活の安定に資するための支援や経済的支援、就労などの自立支援も含めて、今後も進めていきたい。

(委員)

行政が支援を準備していても、その人たちが変わらないと情報を得ることはできないし、支援を受けることもできない。地域で先輩などに、子どもが中学入る場合の費用などを聞けるような関係づくりが必要で、どうしていくのがよいのか、市民と一緒に考えていくことが大事である。

市民のひろばなどは毎月届いて、鹿児島島の取組などが分かる。自分が支援を受けるなど、情報があるので助かる。

(事務局)

情報を必要とする方々に漏れの無いようしっかりとお伝えできるように、今後とも関係部署とも連携して努めてまいりたい。

(会長)

本プランについては、これまでいろいろなご意見をいただきながら固めてきたこの案の形で進めていくということでしょうか。

(委員)

異議なし

(会長)

本プランは「第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画」の全体計画の中で社会的問題となっている「子どもの貧困」について焦点化し、リーディングプロジェクトとして、位置づけられている。事業計画は令和2年度から5カ年、本プランは来年度から4カ年の計画として、子どもたちの育ちを支えていく。一番大事なことは具体的な実効性をもった施策として展開することであるので、これから展開していくなかで、委員の皆様方のさまざまなご協力をいただきながら、こどもの未来をつくっていくことを考えていきたい。

3. その他

(会 長)

会次第3 その他について、委員の皆さんから何かないか。

(委 員)

無し

(会 長)

事務局から何かあるか。

(事務局)

次回の本会議は、令和3年8月頃の開催を見込んでいる。

(会 長)

本日の会議はこれで終了する。